

至仏山-越後駒ヶ岳縦走報告

2010年5月1日(土)ー5日(水)

M4 只左一也

0日目：上野駅→(JR鈍行)→水上駅(駅で仮眠)

1日目：水上駅→(バス)→湯ノ小屋 →
ホタル池付近(幕営：C1)

2日目：C1→笠ヶ岳→至仏山→岳ヶ倉山→スス
ヶ峰→白沢山手前のコル(幕営：C2)

3日目：C2→平ヶ岳→剣ヶ倉山→滝ヶ倉山
→にせ藤原山→藤原山→大水上山→丹後山→避
難小屋(小屋泊)

4日目：避難小屋→大水上山→兎岳→
→中ノ岳→越後駒ヶ岳→駒ノ小屋(小屋泊)

5日目：駒ノ小屋→小倉山→駒の湯温泉→
大湯温泉→(バス)→小出駅 →(JR鈍行)→新宿駅

3日目(5月3日(月))

起床	03:00	
C2		04:40 発
平ヶ岳	06:40 着	07:15 発
剣ヶ倉山	08:20 着/発	
滝ヶ倉山	09:40 着	10:00 発
にせ藤原山	12:00 着	12:10 発
藤原山	13:40 着	13:55 発
大水上山	16:00 着	16:10 発
丹後山避難小屋	16:50 着(避難小屋泊)	

(小屋の中に入ったのは18時)

(歩行時間：約9時間半)

前夜は疲れもあって熟睡だった。支度をしながらも、
剣ヶ倉山の雪庇の状況が気になる。4時半過ぎ、日の
出前に出発。薄雲がかかっているものの、この日も青
空である。

最初は、白沢山の緩やかな登りである。早朝は雪が
締まって歩きやすい。少し登ると木がまばらになり、
展望が開けてきた。程なく、会津駒ヶ岳の稜線から朝
日が昇った。30分もしないうちに白沢山のピークを過
ぎる。平ヶ岳山頂までは広くてなだらかな道が続いて
いる。平ヶ岳に近づくにつれてさらに木が少なくなり、
雪原のような緩やかな斜面を登り切ると、だだっ広い
平ヶ岳山頂に出た。ここまでは順調である。問題はこ
れから。

ほとんどの足跡は、平ヶ岳で引き返していたが、私
の縦走予定コースと同じ剣ヶ倉山・大水上山方面にい
くつかトレースがついていた。向こうへ行く新しいト
レースが2、3人、こちらへ来たトレースも数人分と
いったところか。結構人が歩いているようで、少しほ
っとした気分になるが、とにかく傍まで行ってみない
と状況が分からない。エネルギーを補充して、アイゼ
ンを履き、ストックをピッケルに持ち替え、出発。

山頂から西に向かって少し下ると尾根が細くなり、
すぐ向こうに剣ヶ倉山の登りが見えてくる。もう少し
進むと、ショートスキーを履いた人が前方に見えた。
さらに進むと、もう2人。向こうから剣ヶ倉峰を越え
てやって来たようである。挨拶をして話をする。2人
は50～60歳ほど、1人は30～40歳ほどだった。十字
峡から丹後山に登り、大水上山から藤原山を越え、昨
晩は滝ヶ倉山で幕営したそうである。この先、大水上
山までは、大水上山の登りの雪庇が少し悪い他は特に
危ないところはないが、滝ヶ倉山から藤原山までは藪
が多くてかなり時間がかかる、とのことだった。私が
エスケープルートとして考えている十字峡は、「アイ
ゼンとピッケルがあれば大丈夫だよ。俺らはアイゼン
もピッケルも持っていないから苦労したけど。」

お礼を言って先へ進む。小ピークを越え、剣ヶ倉山
手前のコルを過ぎると、雪庇が崩れかかっている登り
に差しかかる。思ったほど悪くないが、稜線に残って
いる雪もクレバスだらけでやはりおっかない。トレ
ースがついているのは心強いが、藪が出ているところ
はできるだけ藪を歩き、雪庇の上は一気に駆け抜けるよ
うにして登り、剣ヶ倉山山頂(1998m)に無事到着。
これで一先ずほっとした。後ろを振り返ると、稜線が
光を反射して何とも言えない景色だった。ピークから
は見事な稜線が大水上山に続き、その向こうには越後
三山の中ノ岳と越後駒ヶ岳が聳えている。そして北の

方角は、只見川の谷の向こうに立派な荒沢岳。剣ヶ倉山からは、この素晴らしい景色を眺めながら、歩きやすい尾根を下りる。滝ヶ倉山（1716m）まで、標高差300m近い下りになる。滝ヶ倉山に近づいたところで、向こうからゆっくり登って来る高齢者（平均年齢は70歳以上に見えた）の男女6人パーティーとすれ違った。十字峡から中ノ岳を超えて来たそうである。この日のうちに尾瀬の山の鼻まで行くと言うから驚いた。この時間からだと、大変な強行軍である。

滝ヶ倉山に近づくにつれて雪庇が崩れて歩けないところが多くなり、藪こぎを強いられることが多くなる。おまけに、強い日差しが照りつけて気温も上がり、重荷が肩に食い込んでペースがガクッと落ちる。ときどき、遠くから雪崩の音が聞こえてくる。目立たない滝ヶ倉山のピークから先は、雪庇が残っていてもクレバスだらけで危なくて歩けないので（トレースはついてたが…）、にせ藤原山までは半分以上藪こぎになってしまった。

滝ヶ倉山とにせ藤原山のちょうど中間のあたり、尾根がカクッと折れ曲がるところで、むこうからやってきた単独行の若い男性とすれ違う。越後駒ヶ岳から歩いてきて尾瀬へ向かうというから私と逆行程である。これから先は特に悪いところはないが、この先、にせ藤原山までは藪が続くと言う。中ノ岳と越後駒ヶ岳の間も、藪こぎが必要などころがあるそうだ。

日差しがだんだん強くなり、喉が非常に渇く。前日は行動中にあまり水を飲まなかったのも、この日は水を少な目（1.5Lほど）にしか持ってこなかったのが失敗だった。滝ヶ倉山から2時間もかかってようやく「にせ藤原山」山頂（1750m）に到着。丁度12時だった。大水上山がぐっと近づいた。中ノ岳は手前の兎岳に隠れてほとんど見えない。

10分ほど休憩して出発。山頂から少し下ると、これまでハイマツを主体とした低灌木のブッシュだったのが、突然植生が変わってブナの木となる。標高は変わらないのに、面白いものである。藪から解放されたが、すでにバテ気味で、ペースは上がらない。にせ藤原山から1時間半で藤原山（1709m）に到着。白毛門・巻機山から大水上山、そして中ノ岳、越後駒ヶ岳へと続く尾根が目の前に壁のように立ちはだかっている。空を見上げると、朝からずっとかかっていた薄雲が完全に消えて、真っ青になっていた。

北西に延びている尾根は藤原山で折れ曲がって西に向き、少し進んで北へ折れ曲がり、さらに進むと再び西へ折れ曲がって大水上山への最後の登りとなる。2回目の折れ曲がりまではブナの生えている少し広い尾根で歩きやすかったが、大水上山への最後の登りになって尾根が急に細くなる。左側は利根川の源流、右側は只見川（阿賀野川）の源流である。雪庇がいやな崩れ方をしていて、雪が腐っていていつ崩れるかわからないので、大変緊張した。この部分が、今回の縦走で一番厳しいところだった。ここで、向こうから越後駒ヶ岳の駒ノ小屋からやってきたという、スキーを担いだ単独行の中年男性とすれ違う。小屋は満員で、みな朝起きないので、この人も出発が遅れたということである。

尾根の痩せた部分を過ぎると、わずかな距離だが藪こぎの急登があって、あとは大水上山ピークまでなだらかな登りとなる。そして午後4時、ようやく白毛門～巻機山～越後駒ヶ岳の稜線、大水上山の山頂（1831m）に躍り出た。これまでしばらく隠れていた中ノ岳、その左手には全然見えなかった八海山も姿を現した。振り返ると、この日歩いてきた尾根が遙か遠く平ヶ岳まで続いている。今回の最大の目的だった平ヶ岳～大水上山の尾根を無事越えることが出来て、本当に嬉しかった。次ぎの目標は、越後駒ヶ岳である。逆方向となる巻機山方面になだらかな尾根を1時間ほど進むと快適な丹後山避難小屋があるので、避難小屋に向かう。テントを立てたり片づけたりする手間が省け、時間の節約になるというのが大きな理由だったが、これが甘かった…（理由は後ほど）。

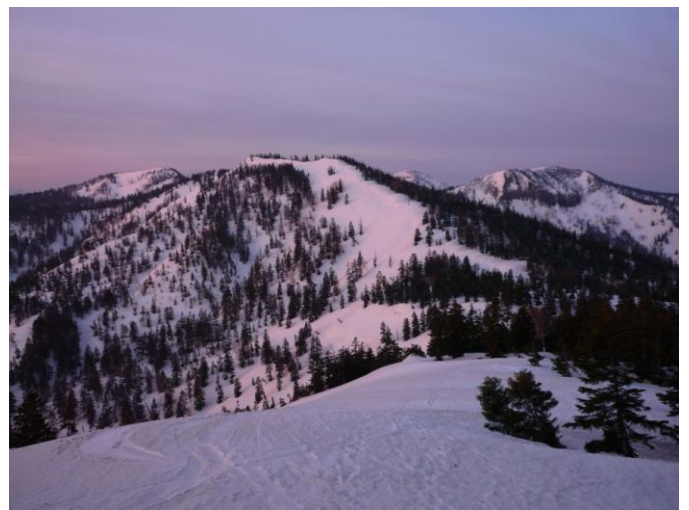
疲れ切っていたし、喉もカラカラだったが、道はほとんど平らで、スノーシューをつけてだっ広い雪尾根を快適に進む。

右手、眼下には十字峡のしゃくなげ湖が光っている。正面は、真っ白な巻機山まで尾根が続いている。1時間もしないうちに丹後山山頂（1809m）に到着。避難小屋は目の前だった。毎年この時期はなぜかこの避難小屋の周囲は雪が解けるようで、今年は雪が少し残っているものの、小屋は1階部分まで完全にむき出しになっている。「これでゆっくり休めるぞ！すぐに雪を溶かして水を思いっきり飲もう！何人ぐらい人がいるかなあ。」などと勝手にあれこれ考えていたが、そうは問屋が卸さなかった。近づいてみると、人気は全く

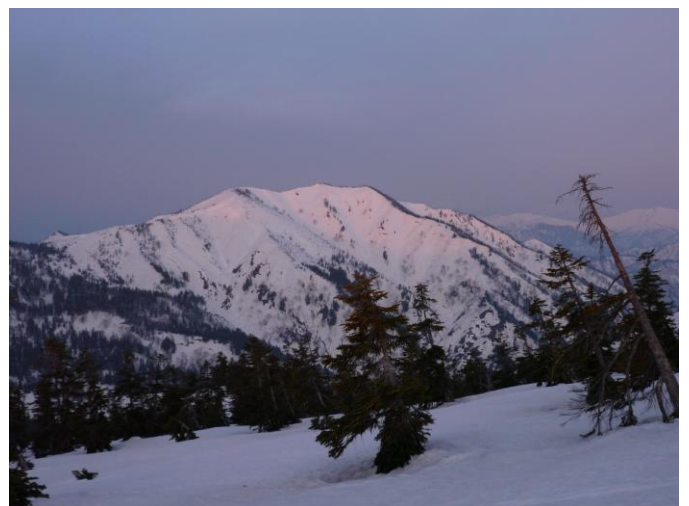
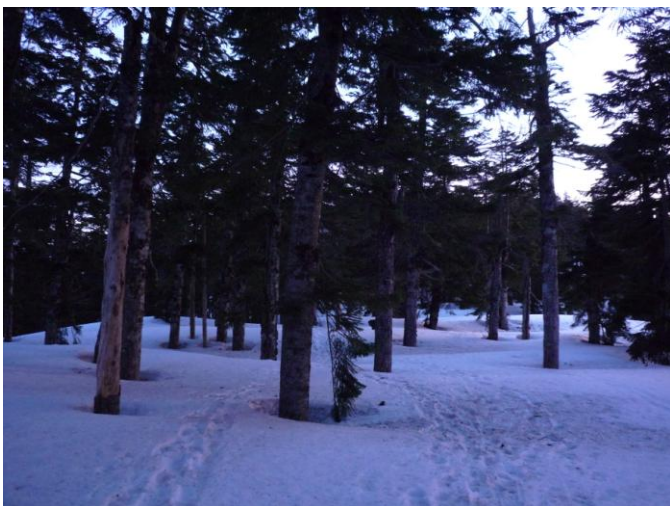
ない。不思議に思って入口に回ると、入口には雪除けの木枠がはめたままである。10本の横木を上から外していき、最後の1本になったところで愕然としてしまった。雪が残って完全に凍りついてしまい、横木が外れないのである。全力で引いてもびくともしない。この横木が外れないと戸は開かない。ゴールデンウィーク後半なので、小屋が開いていないとは夢にも思わなかった…。この小屋の前後には新しいトレースが結構あったので、小屋を使う予定で来た人もいたに違いないが、戸を開けようとした人はいなかったのだろう。横に TENT を張るという選択肢もあったが、この避難小屋で快適に過ごすために、せっかく重い荷物を担いで1時間も余分に歩いて来たのである。何としてでも中に入りたい。横木の周囲の雪を、ピッケルで削って取り除くことにした。カチカチに凍っていて、力を入れてピッケルでたたいても氷が少しずつしか削れない。水を飲み干してしまっ喉がカラカラで、全身疲れ果てていたが、こうなると意地である。ピッケルで戸の前の氷を壊し続けた。1時間後、ようやく横木が外れ、戸が開いた。すぐに氷を溶かして、水をがぶ飲みし、食事の支度をした。広くて快適な小屋だった。毛布もたくさんあり、大変快適に過ごすことができた。苦勞して戸を開けた甲斐があった。大変に印象深い1日となった。



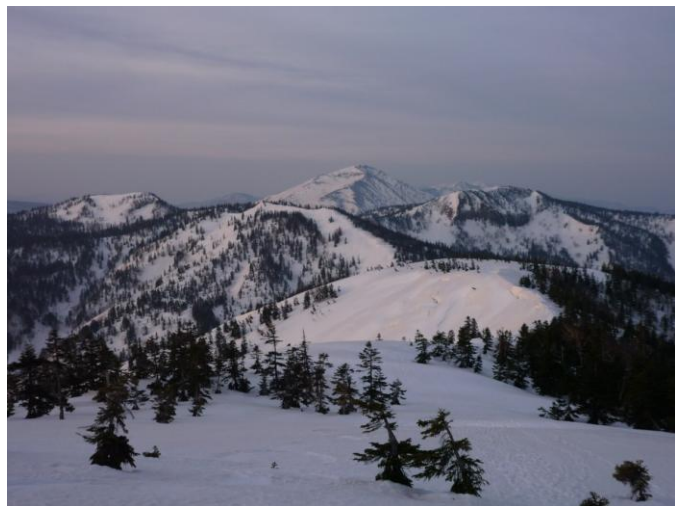
日の出を迎える。右は燧ヶ岳。



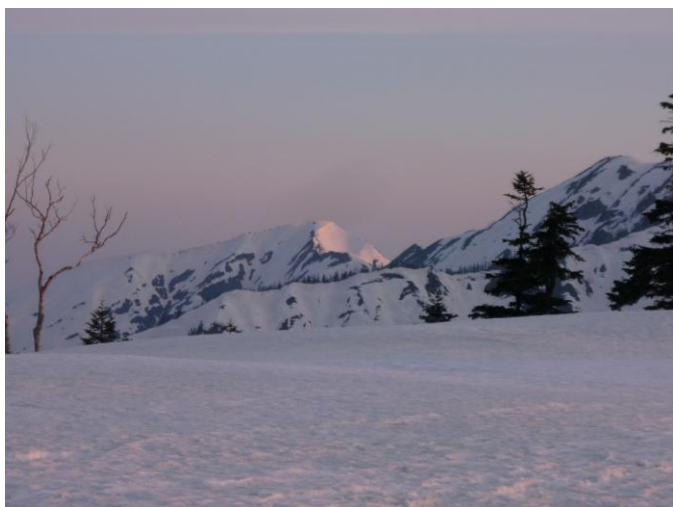
山が朝陽に染まる。右がススケ峰、中央奥が至仏山。



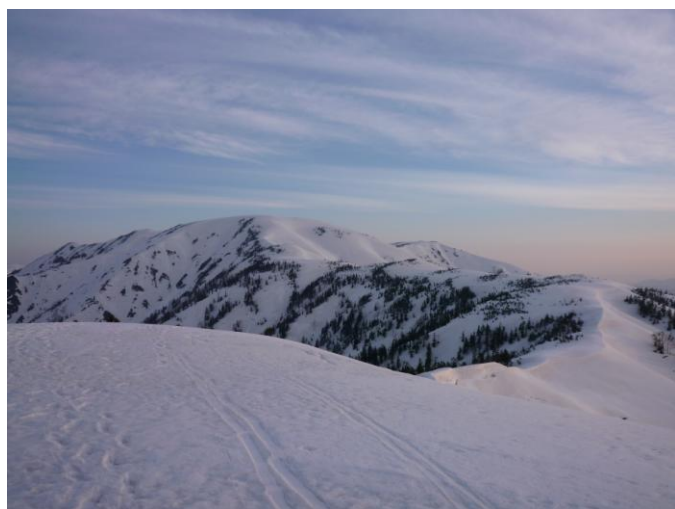
赤倉岳



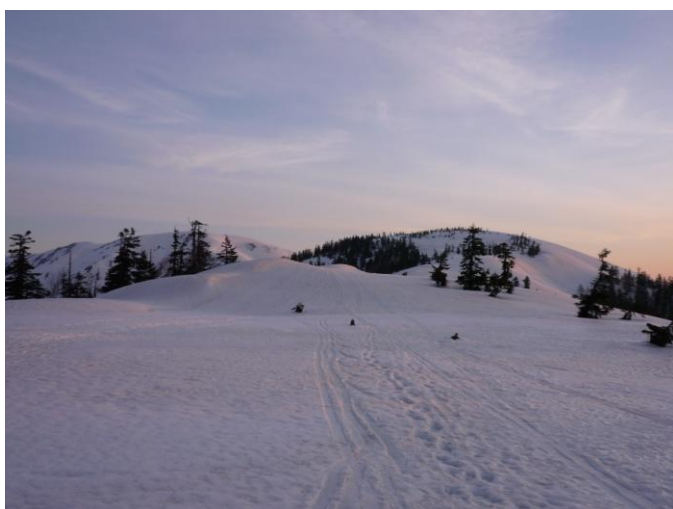
至仏山



問題の剣ヶ倉山。



平ヶ岳へ続く稜線。



平ヶ岳までこのようななだらかな尾根が続く。

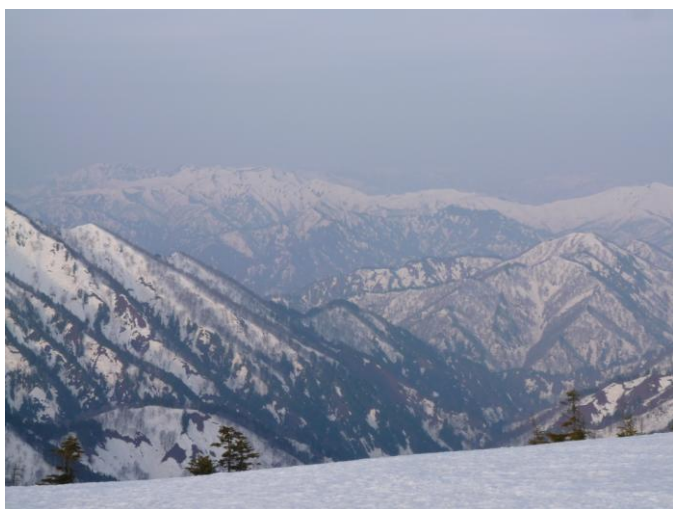




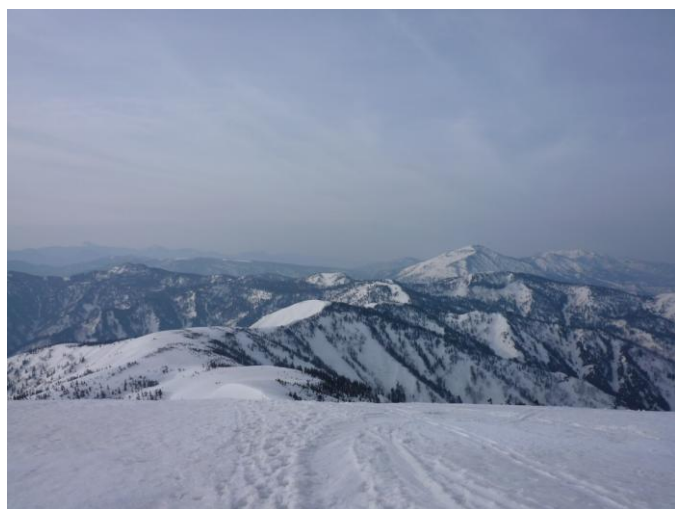
次第に木が疎らになる。



ただっ広い平ヶ岳山頂に到着。



会津朝日岳のあたり。ここも雪が深いところ。



振り返ると、歩いてきた尾根が笠ヶ岳の方まで続いている。



これから向かう中ノ岳・越後駒ヶ岳方面。



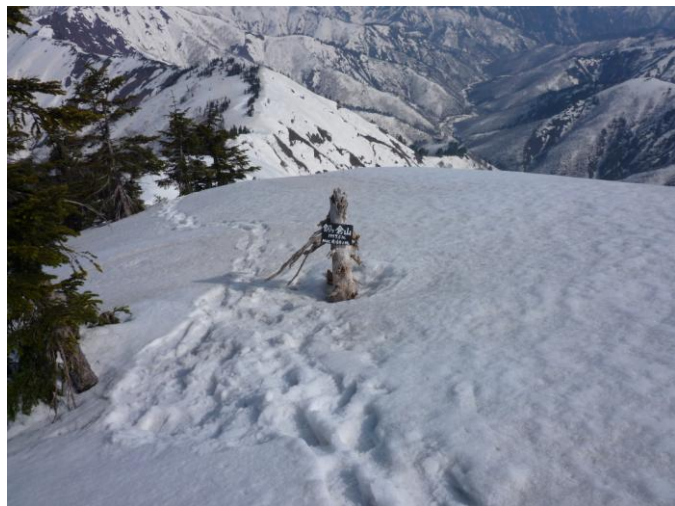
ショートスキーの3人パーティーとすれ違う。



とにかく、剣ヶ倉山の下まで行ってみる。



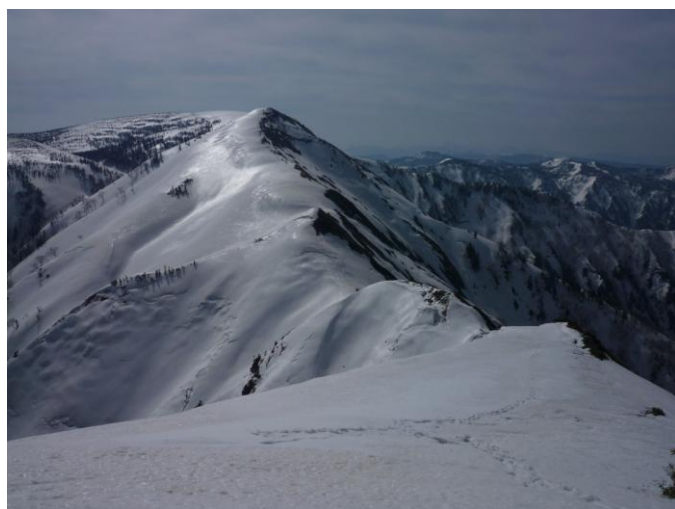
ここはクレバスが多くて、緊張した。



無事、剣ヶ倉山頂(1998m)に到着。



こういうところは藪を歩く。



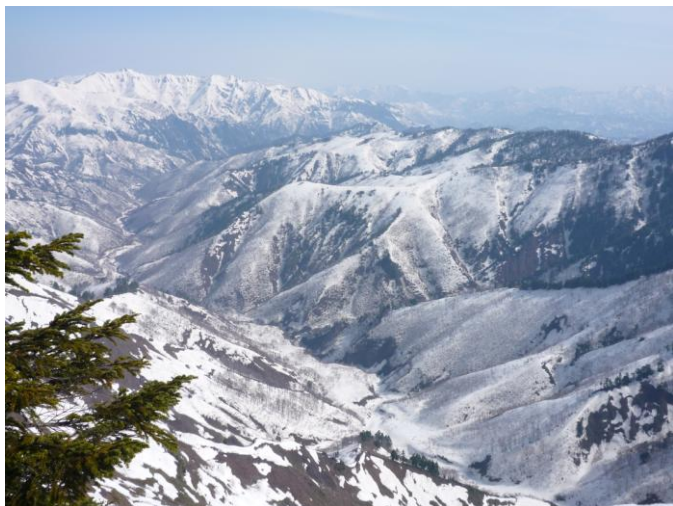
後を振り返る。輝く雪面が何とも言えない。



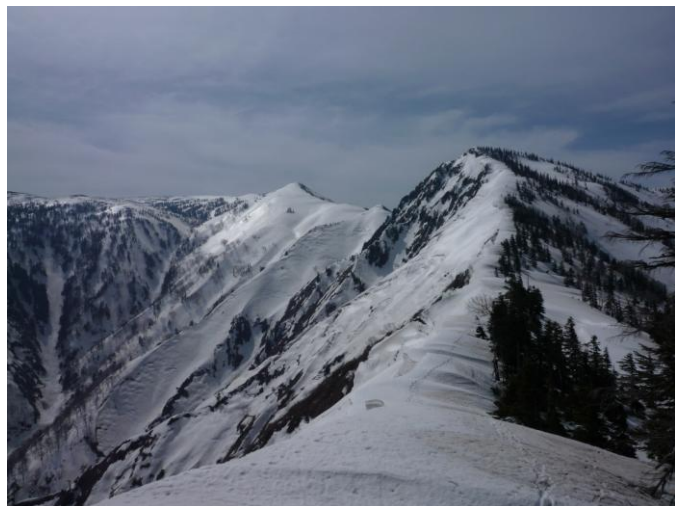
剣ヶ倉山山頂直下。



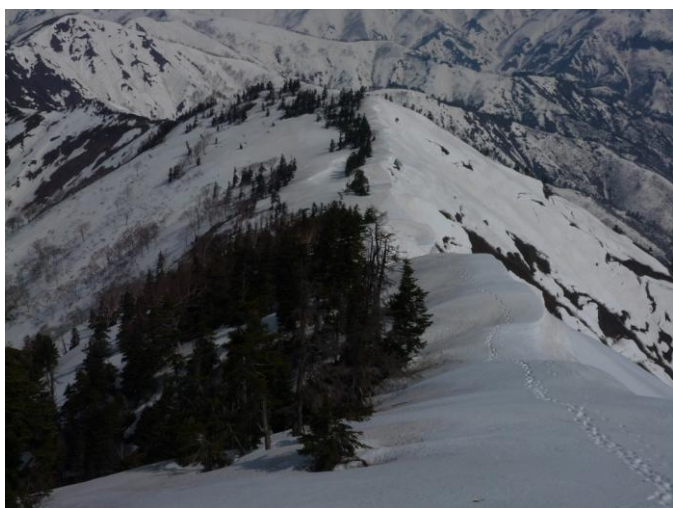
大水上山、中ノ岳へと続く稜線が素晴らしい。



北の眺め。只見川(阿賀野川)源流中ノ岐川。左遠くは荒沢岳(1969m)。



剣ヶ倉山を振り返る(右)。





次第に右手の雪庇が崩れ、左手の雪が溶けて、藪がむき出しになっているところが多くなる。



今にも落ちそうな雪のブロック

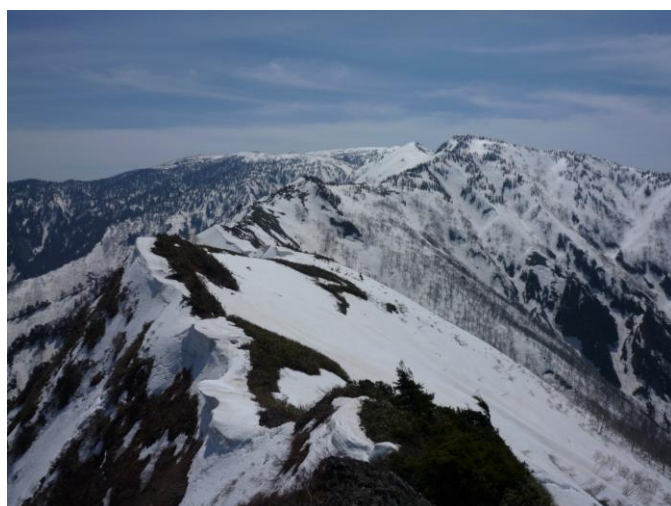
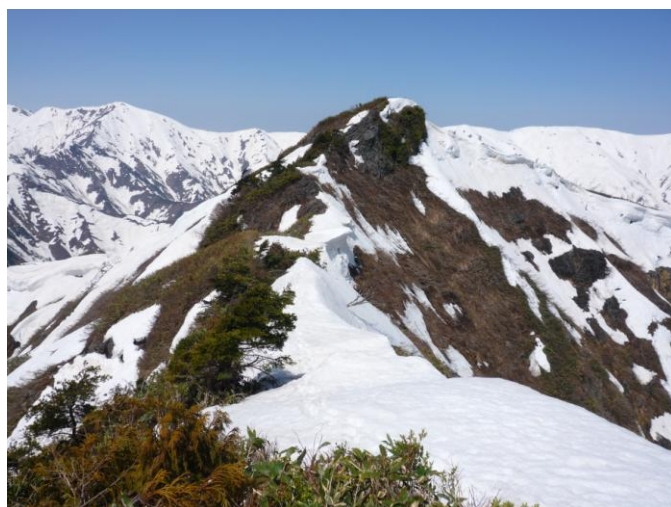
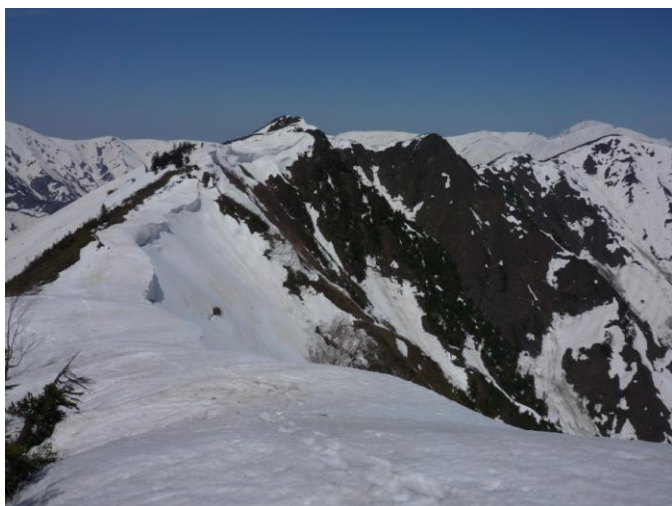
こういうところは藪こぎ。



滝ヶ倉山のあたりはなだらかな地形で、平ヶ岳～大水上山間で安心してテントを張れる数少ない場所の一つ。



南の眺め。



振り返ると平ヶ岳(中央の平らなところ)がずいぶんと遠くなった。



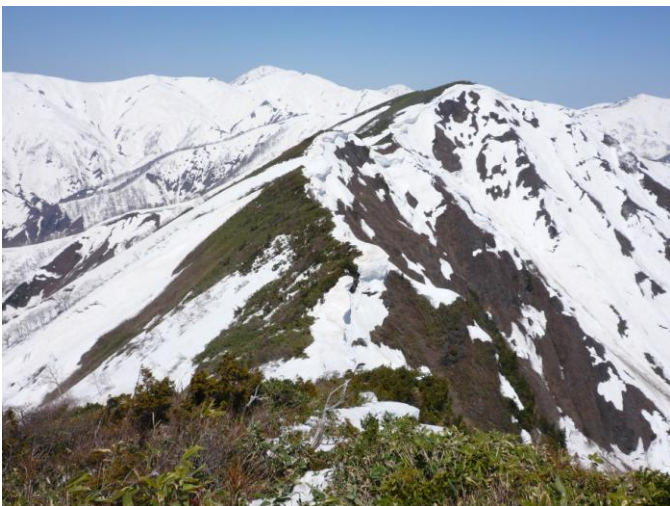
笹の藪こぎ。



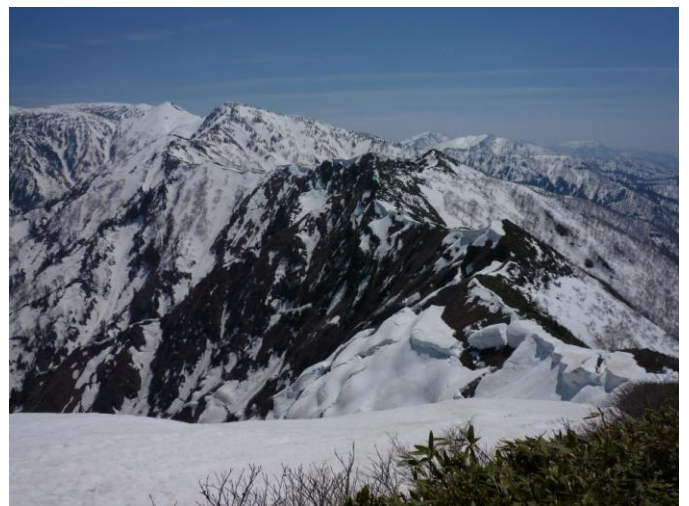
このように、藪こぎと雪歩きが半々。



にせ藤原山山頂(1750m)。



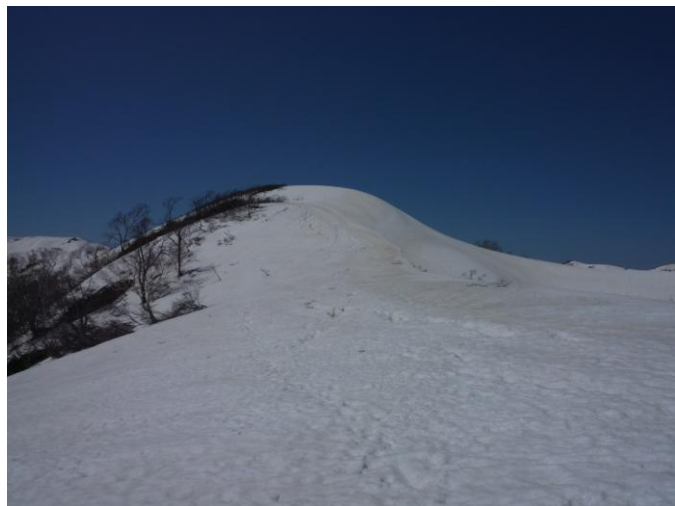
中央右が「にせ藤原山」。滝ヶ倉山からにせ藤原山までは長かった。



平ヶ岳(2140m 左端)からなだらかに下ってきた。



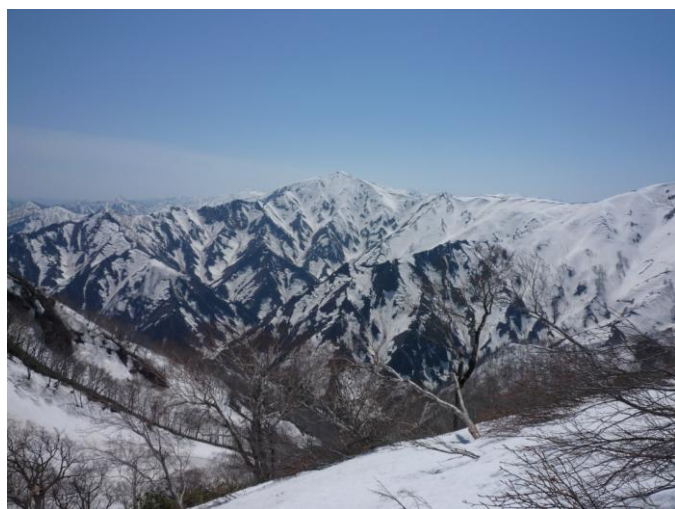
このあたりから中ノ岳(2085m)まで少しずつ登り返す。



藤原山山頂(1709m)



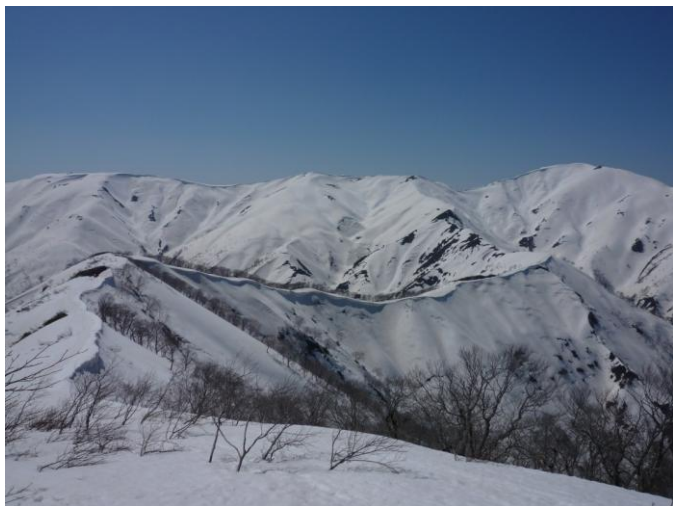
このあたりから急にブナ林が出現する。



南の眺め。巻機山と大水上山の間にある越後沢山(1861m)が立派。



平ヶ岳方面を振り返る。



大水上山は近い。正面の稜線は、巻機山から越後駒ヶ岳に続く尾根。右端が兎岳(1926m)、兎岳から左へ下って少し登り返した小さなピークが利根川水源の大水上山(1831m)、左端が避難小屋のある丹後山(1809m)。



北の荒沢岳。



中央が兎岳。歩いている尾根が正面の稜線にぶつかるところが大水上山。



ブナの美林。

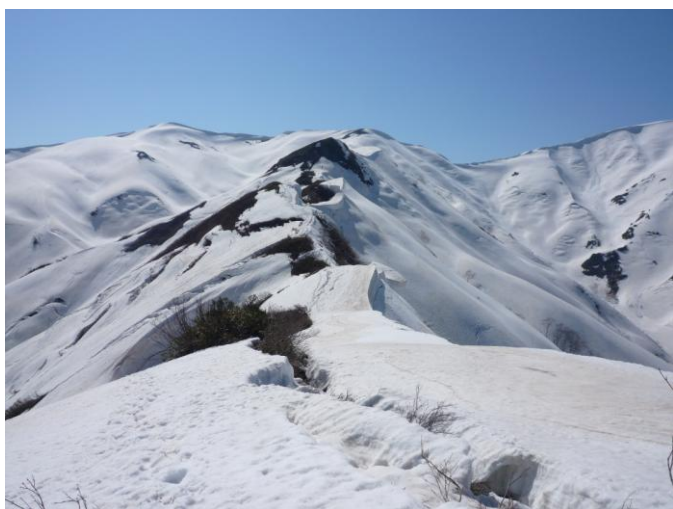




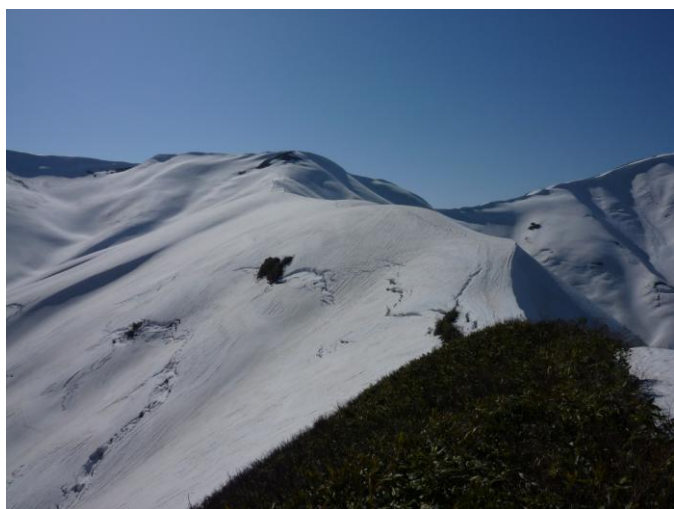
尾根が急に痩せてきた。



痩せ尾根を過ぎると、数十メートルの藪の急登。



ここが今回の縦走で一番緊張したところ。雪庇がいやな崩れ方をしていた。



大水上山は目の前。



藪の急坂をよじ登ったところから後ろを振り返る。
平ヶ岳ははるか遠くになった。



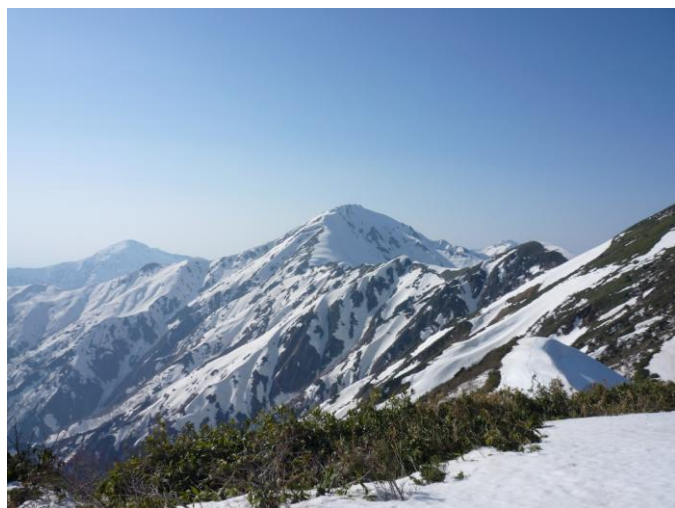
左手は利根川源流域。中央遠くは至仏山。



午後 4 時、大水上山に無事到着！ 正直なところ、ほっとしたと同時に、嬉しかった。



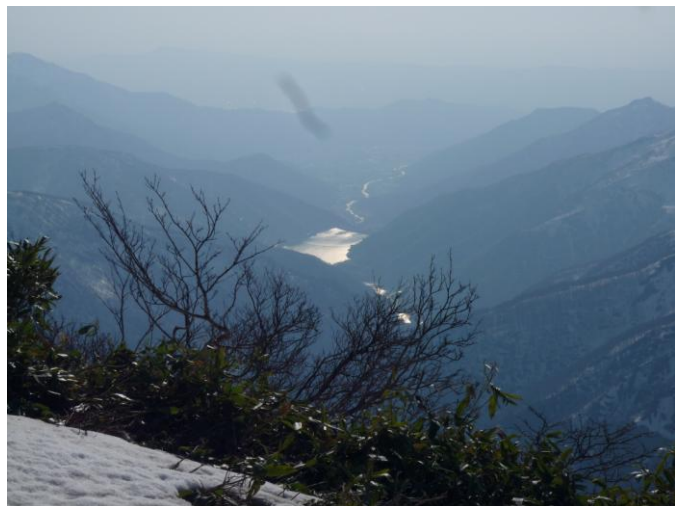
この雪が溶けて利根川となる。左は平ヶ岳、右は至仏山。



中ノ岳が見事。左は八海山。



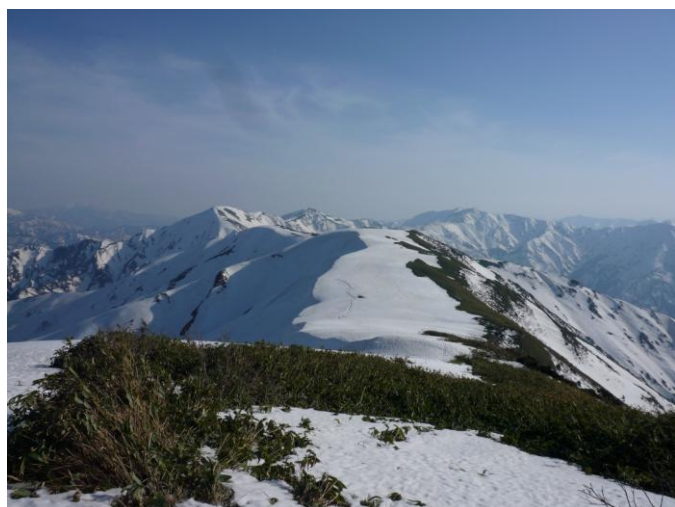
平ヶ岳から剣ヶ倉山、滝ヶ倉山、藤原山と、この日歩いてきた稜線を振り返り、満足感に浸る。右端は至仏山。



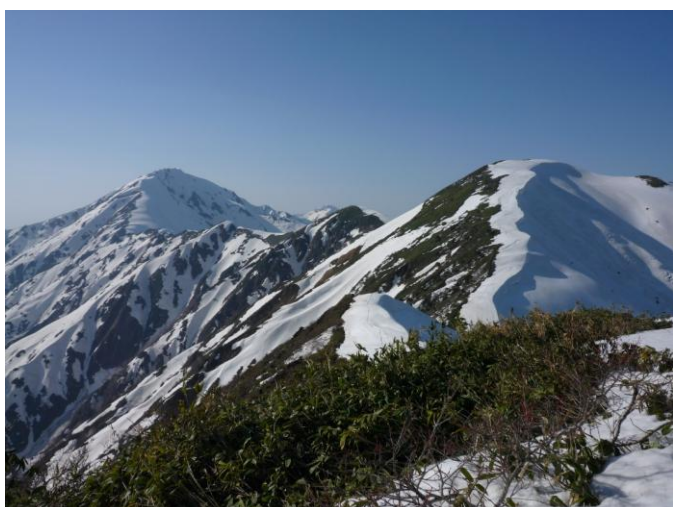
三国川(さぐにがわ)のしゃくなげ湖。



縦走の方向とは逆になるが、丹後山避難小屋を目指して南下する。



丹後山までこのようにほとんど平ら。



中ノ岳と兎岳(右)



丹後山山頂(1809m)



避難小屋は目の前。



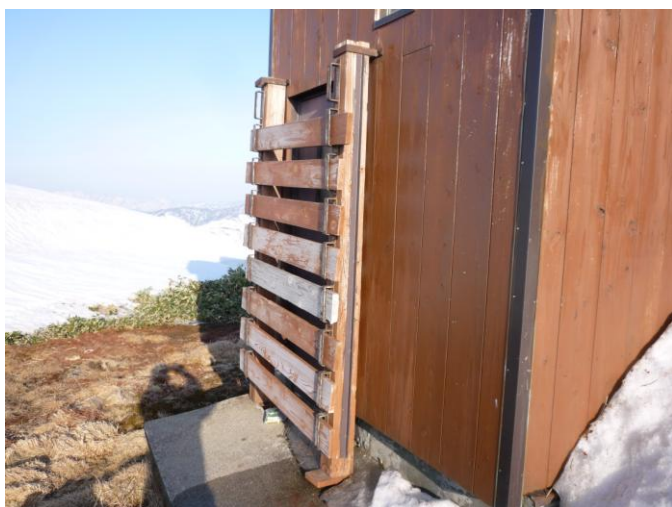
横木を上からは外して行ったが、最後の1本は雪が凍りついて外れない。この横木のせいでドアが開かず、中には入れない。ピッケルで雪を削って、中に入るまでに1時間もかかってしまった。



小屋の周りは雪が溶けている。喉がカラカラだったので、すぐに小屋に入って、雪を溶かして水を思いっきり飲もう、と思ったが…



きれいな小屋で、毛布もたくさんあり、快適に過ごすことができた。苦勞して戸を開けた甲斐があった。



入口が閉まっている…。(こちらはトイレの戸。前の写真で、雪が積もっている方が小屋の入口の前を覆っている木枠。)